



## 東桂地区 其の二

神社名 太宰府天神社

鎮座地 都留市境中曾根九五〇番地

祭神 菅原道真卿

例祭

例祭日は四月十五日（もとは四月二十五日）

由緒

創立年代は明らかではないが、明応五年（一四九六年）六月御座松の下に奉遷とのこと故、創立はそれ以前であろうと考えられる。天正二年（一五七四年）十一月、小山田信茂郡代境弾正平有誠が再建せしも破損し、享保四年（一七一九年）再建。天保八年（一八三七年）類焼炎上し、名主天野伴蔵等関係者の尽力によって、明治元年（一八六八年）六月二十五日再建。明治四年七月四日郷社定則により村社に列格。

昭和十七年六月二十五日神饌幣帛料供進神社に指定される。境村の上境組は倉見より、下境組は鹿留村より分村し両村の境として境村と称するようになった。

上境組の代表は倉見村の白山神社の例祭に、下境組の代表は鹿留村今宮神社の例祭に、それぞれもとの氏子として参列拝礼を行な

っている。しかし、今は白山神社への参列は廃されて、今宮神社の例祭には、境区長をはじめ代表者が参列しその古例を伝える。

山梨県市郡村誌

に

〔太宰府社〕

村社社地東西八

拾壹間南北七拾

三間壹尺八寸面

社殿

本殿、拝殿、神庫各一字。

社殿現在の屋根は銅板葺で、昭和五十二年十月十日屋根替工事に成るもので大変立派である。

鳥居 木造一基。

狛犬 石造一對。

神灯 二対 古一対は文化十四年施主天野藤助と銘あり。新二対は昭和四十八年施主水岸達美

境内

一反九畝二十四歩（官有地）

境内社

蚕影神社

秋葉神社

山神社

道祖神等が祀られている。

社殿及び彫刻について

社殿は権現造りといわれ、その彫刻は当時境の豪農名主天野開三翁の招き

で、伊豆国江奈村の小沢流の名工小沢半兵衛邦秀、小沢徳蔵俊秀親子が、何年もの長い歳月をかけて彫工したもので、社殿全体に亘って各種各様の彫刻で荘厳され、森厳にして華麗なることは他にその類を見ない程立派なものである。

社殿造営設計図（平板 136.5 cm × 112 cm）に

元治元 甲子 年九月吉 日

豆州江奈村彫大工惣棟梁

小沢半兵衛邦秀

小沢徳蔵俊秀（俊秀はのちに都留市上谷の福田家と養子縁組をなし、福田俊秀と称し名工として知られている。）

脇棟梁

米山佐重郎

杉田幸次郎

志村忠右衛門

甲州八代郡内船村

脇棟梁

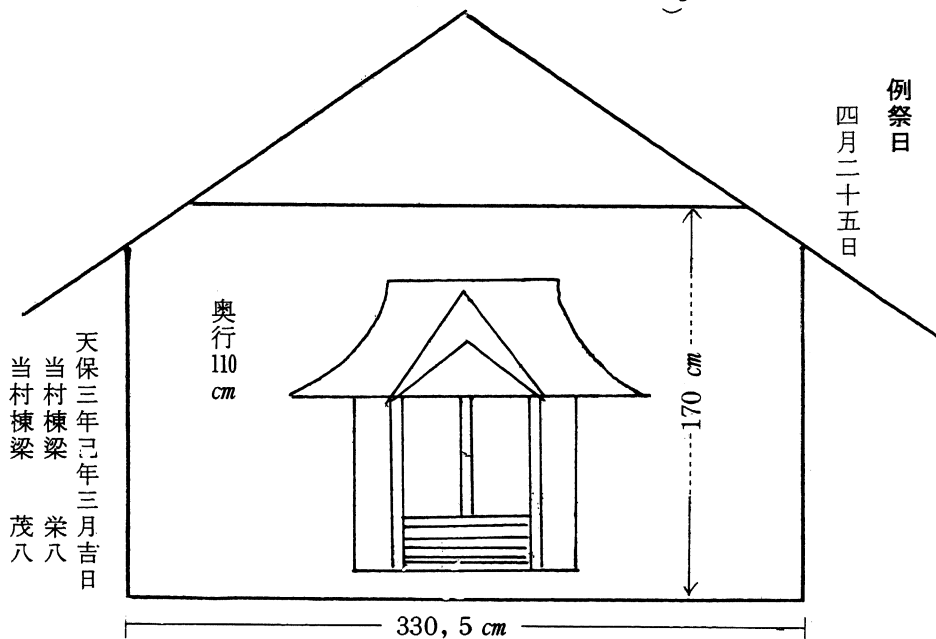
若林利助長勝

若林三郎兵衛森房

若林多之助正勝

と銘記されている。

神社名 大神宮社  
鎮座地 都留市境棒差一、七三六番地  
祭神 天照大神  
例祭日 四月二十五日



天保三年己年三月吉日  
当村棟梁 栄八  
当村棟梁 茂八

御由緒 不詳  
境上組単独の神社として奉祀す。大神講行事として伊勢参宮をなしその無事を祈った。境の上組は倉見村の分村で、長く白山神社の氏子として奉仕してきたが、今は境地区の産土神として太宰府天神社を祭祀している。

神社名 今宮神社

鎮座地 都留市鹿留上の山二、五九〇番地

祭神 建速須佐之男命、櫛稲田姫命、表筒男命、中筒男命、底筒

男命、速玉男命、伊弉諾尊、伊弉册尊、菅原道真卿、

例祭



九月五日例祭日、もとは七月廿一日であった。

神事用具

神楽、神輿等保

存。

由緒

今宮神社境内本殿前に、次のような大きな立札が建てられてある。

今宮神社  
白鳳時代元明天皇和銅二年  
紀元一三六八年創立  
天明五年紀元二四四五年八月再建  
明治四年七月四日郷社定則に依り村社に列格  
甲斐国志今宮大権現鹿留村産神なり祭礼旧七月二十一日  
神主川上山城

南鶴神社誌に

「第三四代元明天皇和銅二年（七〇九年）、連日の長雨に鹿留川の洪水の災害甚しき上に、疫病流行して人心不安に陥りしかば、当社を創立して天下泰平国家安穩五穀豊饒人心安定の一大祈願祭を奉仕した。

天明五年（一七八五年）八月社殿の再建造営と境内地の整備をなし以て大いに神威を宣揚した。

明治四年七月四日郷社定則に依り村社に列せらる。

明治四十年二月十六日山梨県告示を以て神饌幣帛料供進神社に指定さる。」とある。

山梨県市郡村誌に

〔今宮社〕 全社地東西九拾六間四尺八寸南北九拾五間面積九百貳拾坪本村東方鹿留組ニアリ祭神建速素盞鳴尊稻依比売命、祭日全七月二十一日社地中杉樺樞大樹六株アリ囲壺丈ヨリ壺丈七尺ニ至ル。と記されている。

社殿

本殿、拜殿各一宇。

社殿表に「神威崇厳」の大きな横額がかかげられてある。

舞殿 切妻トタン葺、五間<sup>二</sup>三間。

神庫 一宇。

神灯 一対 丙文化三年七月吉日  
願主当村白須又兵衛と刻まれている。

鳥居 もとはあったが今はない。

神鏡 一 藤原系のものといわれている。

境内

三反二〇歩 (官有地)

末社

熊野神社 (宮下)

住吉神社 (古渡)

祭神中菅原道真卿は、後世合祀されたものであるが、その年代等は不明である。

勅撰六国史の一つである、日本後記延暦十六年三月の条に、

「先是甲斐相摸二国相争国界遣使定<sup>一</sup>甲斐国都留郡鹿留村東<sup>二</sup>辺砥沢<sup>レ</sup>為<sup>レ</sup>两国界以西<sup>二</sup>為<sup>レ</sup>甲斐国地以<sup>レ</sup>相模国地<sup>一</sup>以东<sup>二</sup>為<sup>レ</sup>相模<sup>一</sup>国地とある。

創立年代から推定しても、鹿留村の発達は相当古くからであることが思われる。

神社名 熊野神社

鎮座地 都留市鹿留二四三六ノ一番地

祭神 速玉男命

事佐賀命

伊佐奈伎之命

御神体

木像にて製作年代は明らかではないが、一千年前の作であると古老の話である。

例祭

十二月一日

甲斐国社記には「祭礼十一月朔日」とある。

神事用具

「天保十三年壬寅歳（一八四二年）四月十五日 姓子中 大宮司 四三世吉濟（花押）」の二枚の棟札が保存されている。

甲斐国社記に

〔熊野三社大明神〕鹿留村宮下

社地壹反三畝拾歩 柴山御年貢地。とある。

甲斐国志には

一〔熊野三社権現〕鹿留村  
産神 例祭十二月朔日神主川上山城。となつ

ている。

現在は今宮神社の末社となっているが、昔はの方が重んぜられていたように思われる。

社殿

本殿一宇、神事用建物一宇。

本殿は向拝造りで、向拝の内側左右一対の竜の彫刻・向拝の外側柱の獅子頭一対 及び獸面一対（内一箇紛失）の彫刻は相当古いものである。年代等不詳であるがまことに残念である。

境内

一反十歩、山林三反九畝。

石段中腹右側に県指定天然記念物の大杉がある。

「根まわり10m、眼通し周囲7.40m、枝張り南北18.38m、東西15.70m、樹高34.50m樹令旧、発育良好、昭和七年十一月二十八日 山梨県」の



由緒 不詳  
棟札 (76cm×16cm×3cm) に、「熊野山七社権現御建立、元禄拾年（一六九七年）二月十五日」とあり、また別に「再建天保十二年亥（一八四一年）四月十五日 名主仙蔵 外三四名」と、

お筒粥の神事が行なわれ、そのお筒などもあったのだが、終戦直後にこの行事が廃され、いつの間にかお筒もなくなり、今はお筒粥をした当時の建物一宇があり、その中に神事を行なった炉が残されているのみである。

石柱が建てられている。

境内社

稻荷神社、天狗さん。

神事お筒粥について

正徳五年（一七一五年）より毎歳正月十五日に、お筒粥と称する神事が行なわれていた。深夜粥を煮てこれに筒を入れ、その筒に入る粥の量とその夜の月の出入とによって、その年の作物の豊凶等を占った。この神事は終戦直後まで行なわれていたが今は自然消滅となっている。柙宜をつとめられている志村唯志氏は「お筒粥の神事を、何んとかして復活して、この歴史ある民俗信仰行事の伝統をまもっていききたいものである」とその希望を述べられている。

神社名 住吉神社

鎮座地 都留市鹿留城山二、三〇一番地

祭神 表筒男命、

中筒男命、

底筒男命、

例祭

四月十五日

由緒

甲斐国志古蹟の部によると

一〔古城山〕鹿留村 頂ヲ撞鐘堂ト云此山東ヨリ西北ヘ横ハリ鹿留川其岸ヲ繞リ今橋ノ東ニ至リテ桂川ニ会ス周囲式町許甚タ小山ナレトモ衆山ニ離レテ孤立セリ東ヨリ上ル道アリ中間ニ掘切アリ最頂ハ平坦ニシテ方五間許、中腹ニ平地アリ是古ヘ陣鐘ヲ懸ケテ急ヲ谷村ヘ告ゲ又西ハ吉田、船津ヘ告ゲシナルベシ天明中嶺上ニ住吉明神ノ社ヲ建ツ殘簡風土記ヲ引キテ和銅二年佐伯公蔭勸請スル所トス。其所以ヲ尋ヌレハ此山ニ廢祠アリ其神体鉢ノ如キ物ノ中ニ人ノ坐セル形ナリ：略：然ラバ住吉明神ノ神体ナルベシトテ山上ニ神祠ヲ建ツ 又此山ノ形舟ニ似タリ住吉ハ海上ヲ守護シ玉フ神ニテ此山ニモ相応スレハ住吉明神ナルコト疑ヒナシトテ造宮セシヨシ云 となつてゐる。  
さらにまた  
一〔佐伯〕 田原下浅間近辺ノ地名也 因テ橋ヲ佐伯橋ト云 殘簡風土記ニ云住吉神社 元明天皇和銅二年己酉六月佐伯公蔭勸請ノ社也トアリ是公蔭居住ノ地ナリシヤ但年曆久遠ナレハ今其館跡ヲ不レ詳唯地名ニ存スルノミ又此ヨリ東拾町許法能村ノ西ニ住吉ト云地アリ是住吉明神ノ社地ナルヘシ 中略 郡中ニテ外ニハ住吉社ナク地形モ佐伯ノ続ナレハ是公蔭カ勸請ノ社ナルヘシ。と記されている。

古城山住吉明神という。

甲斐国志社記には

○住吉大明神

祭礼三月廿五日

此ノ社ヤ、久シク退ハイ遲及時至リシヤ天明歳中（一七八一〜一七八八）邇相アラハレ造宮アリ



風土記邇所ノスルハ和銅ニ歳己酉（七〇九）六月佐伯公蔭ノ勸請ノ社ハ恐ラクハ是ナラント人々云ナリ、浜川ノ七ケイ有リ。尾長淵、獅子岩、獺穴、屏風岩、鳥帽子岩、鞍掛岩、鏡岩。とある。

社殿

老松古木の舟形をした、この小山の中腹にある平地が陣鐘跡といわれ、古蹟を物語っている。

石段登り口に境内社としての、鬼子母神、白山神社等が祀られている。中段に鳥居の礎石がある。

神灯 二対 谷村新町 舟久保清七 文化元甲子秋 とある。

本殿 社殿の中にあつて権現造り檜皮葺一間社

朱塗りで彫刻があり、正面に三ツ巴の紋章がある。

社殿 切妻トタン葺 二間Ⅱ三間半。中に俳句の献額があり、右側に住吉八景とされるされている。

御神体

木のお椀（直径13cm）が祀られている。この御神体にちなんだ伝説は有名である。

神社名 大山神社

鎮座地 都留市鹿留砂原

祭神 山の神、オシラ神、富士浅間。

御神体は鏡である。

## 由 緒

一般に大山神社のことを「山の神さん」と呼んでいる。もと池の平に祀られてあったものが現在地に遷座された。以前は沖地区全部落で神楽を舞い、神輿をかついで一戸一戸回った。山の神の祭りの時は一ノ瀬の山の神に参り、次に大山神社へ参拝する。また



各家から金を集め、のぼりを立てて神酒をあげる。正月には各家で弓を作ったあげた。今は砂原、田屋、大野の三部落のものとして祀られ祭事が行なわれている。

大山神社に対しては、病気などになったとき、立派な鳥居など

あげることができないが、せめて絵馬をあげるから願い事を聞いて下さい、病気を癒して下さいと拝む。また願いがかなったとき、病いをたち切るという意味で、ハサミなどの刃物をあげた。

## 社 殿

本殿 一宇、中に仏像三体祀られている。

神庫 一宇

鳥居 鋼鉄製一基。

狛犬 石造一対